

房総 だより

(農)房総食料センター

千葉県山武郡横芝光町上原 368-1

<http://www.boso.or.jp/>

☆産地情報をお知らせします。

発行：2018年11月9日

野良仕事

手応え、十分！

畑のかたわらの梢で冬鳥のジョウビタキがさえずり始めた。この頃になるとさつま芋の貯蔵作業が最盛期を迎える。今年の夏は高温と乾燥が紅東の芋の育ちに大きな影響を与えた。多くの生産者が「でかい芋が多すぎる。そして曲がった芋も結構出るなあ」とこぼしている。同じさつま芋でもべにはるかは芋の形に天候の影響をほとんど受けない。私の畑でも多少この傾向はあったが、問題になるほどではなかった。むしろ、ある畑では今までにないような良い形状の芋が揃いも良くてきた。その畑は一昨年落花生を作り、昨年は何も作らずにあけておいた。苗の定植後は苗の生育が今一つで心配したが取り越し苦労で終わった。結局は1年休ませたおかげで余分な肥料が抜けてちょうど良い肥料の量になっていたのだ。昨年作付けしてたら10月の長雨と台風で水がたまってしまったので、とても幸運な感じがする。

10年以上前から作付けを3割減らして収量を3割上げることを目標にやっている。そして紅東に適した畑にしか紅東を作らないことにしてる。落花生と、『つちたろう（土作りのための牧草の一種）』はサツマイモネコブセンチュウ（※）を減らし、肥料があまり残らないのでその後に作る。実際に収量も3割上がっている。

「適した畑にしか作らない」という密かなこだわりも結果が出ていることで、充実感がある。



今の時代、売る側はさつま芋に限らずいろいろな品種を揃えないと消費者の要望に答えられない。そんな中でも紅東の特徴を充分に引き出し「こんなおいしい紅東を食べたことがない」と言ってもらえるように作り続けていきたい。

(香取市 宮負 要一)

(※) 体長が1mmにも満たないミミズのような形をした土の中に住む害虫です。